

現職英語教員の成長のための省察ツール

『言語教師のポートフォリオ』 導入へのストラテジー

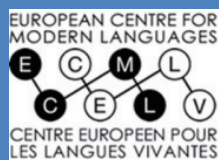


J-POSTL

Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages
A Reflection Tool for Professional Development

JACET 教育問題研究会

<http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>



現職教員研修・免許更新講習指導者の皆様へ 『言語教師のポートフォリオ』導入へのストラテジー

『言語教師のポートフォリオ』(J-POSTL)を現職教員研修に導入し、その教育効果を促進するためには、ある種の戦略が必要です。以下、基本的な導入戦略を紹介しましょう。

導入への準備

1. J-POSTL の内容と理念を十分理解する。
2. プログラムの編成内容と J-POSTL との関連性を明確にし、【現職英語教師編】か【全編】のどちらを使うか決める。
3. 研修や講習のプログラムに J-POSTL の内容を組み入れる。(例：自己評価記述文の7分野のうちどの分野を、あるいは、どの領域を、あるいは、どの記述文を重点的に組み入れるかを決める。)
4. プログラムの参加者に J-POSTL を紹介するための可能な方策を考案する。(例：主な3つのセクション(自分自身について、自己評価記述文、ドシエ)のうち、どのセクションから使い始めるかを決める。)
5. J-POSTL を使って授業力や省察力を高める方法を立案者と指導者間で議論し具体的に示す。(例：モデル授業や参加者の授業を録画し、自己評価記述文を利用しながらワークショップ形式で行う。)
6. 研修や講習の参加者に対し、J-POSTL は教師教育の国際的な自己評価ツールであるという認識を高める。(例：序文を利用するのは当然として、本研究会やヨーロッパ現代言語センター(ECML)のホームページ(<http://epostl2.ecml.at>)から必要な資料をダウンロードして活用する。)
7. J-POSTL の活用方法を、使用目的や研修参加者の現状に合わせて研究する。
8. 参加者からのフィードバックを収集する。

勤務校の同僚との協働

1. J-POSTL の活用経験を同僚と共有する。
2. 同僚に英語以外の言語教員がいる場合にはその協力を求める。
3. 同僚と J-POSTL 活用事例の検討会や報告会を開く。
4. J-POSTL 活用の利点を調査・研究する。

行動計画

1. J-POSTL の首尾一貫した活用方法を定着させるために、同僚と協調して実践を試みる。(例：授業科目によって利用する自己評価記述文を決め、年度終了時に授業実践を検証する。)
2. J-POSTL の具体的な活用計画(目的、内容、時間、など)を同僚と合意する。

ネットワークの構築

1. 近隣の学校の指導的立場にある教員と協力して、言語教員のためのセミナー、ワークショップ、研究会などを開催する。

公的機関などからの支援

1. 文科省、教育委員会、言語教育関連学会、各学校の校長などに対して、研究会の開催、研究会などの報告書・発表レポート・論集の送付などの手段を用いて広報活動を行う。
2. 全国的な支援のネットワーク作りに協力する。